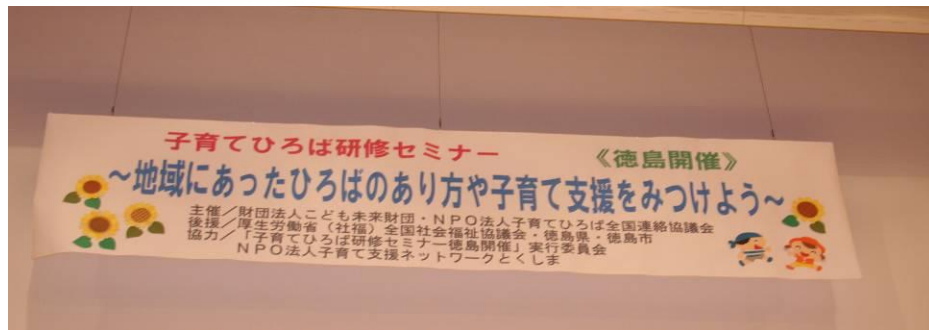


「子育てひろば研修セミナー」〈徳島開催〉

『～地域にあったひろばのあり方や 子育て支援をみつけよう～』



〈開催概要〉

- 開催日 2008年7月13日 10:00～16:30
- 会場 徳島県立男女共同参画交流センターフレアとくしま(アスティとくしま内)
(〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示1)
- 主催 財団法人子ども未来財団・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援 厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・徳島県・徳島市
- 協力 子育てひろば研修セミナー「徳島開催」実行委員会
NPO法人子育て支援ネットワークとくしま
- 参加者 178名(男34名、女144名)
(行政:62名、NPO・任意団体:53名、他団体・企業:29名、その他:34名)

＜開催趣旨＞

平成 19 年度より、つどいの広場事業、地域子育て支援センター事業を統合し、児童館などのスペースも活用しながら、地域子育て支援拠点事業（ひろば型、センター型、児童館型）が新たに再編されました。そこで、行政とともに地域における子育て支援拠点間の連携を図りながら、子育てひろばの意義と役割を検証します。また、ひろばスタッフ一人ひとりが日頃の活動を振り返り、見識を深め、スキルアップに寄与することを目的とします。

＜プログラム趣旨＞

平成 15 年に徳島市中心商店街に「子育てほっとスペースすきっぷ」がオープン後、子育て支援担当者や子育て支援ボランティアを始めたい方、行政、商店街の視察が急激に増え、乳幼児の親子がつどえる子育て支援のあり方に関心が寄せられています。

NPO、民間団体、行政、保育士、地域、商店街、住民の方たちとともに、地域の状況にあった「子育てひろば」の形を見つけ、「出会い」「つながり」「学び会う」機会になることを願っています。

＜全体司会＞

NPO法人 子育て支援ネットワークとくしま
晴山 園世



＜開会挨拶＞

主催の財団法人こども未来財団 武田 久恵さん



＜プログラム1＞ 基調報告

テーマ 「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

講師 厚生労働省雇用均等 児童家庭局総務課 少子化対策企画室室長 朝川 知昭さん



朝川室長より、現在の我が国の少子化の現状とその背景について、そして、今後の厚生労働省の取り組みについてのお話をいただきました。「子どもと家族を応援する日本」重点戦略、「新待機児童ゼロ作戦」、児童福祉法等の改正案、地域の次世代育成支援行動計画についてもポイントを示して説明していただきました。講演の最後には新しい地域子育て支援の展開に向けた課題が示されており、参加者にとって勇気づけられるお話を聞かせていただきました。

参加者からは、豊富なデータを元に具体的に説明していただき理解しやすかった、なかなか知る機会がない国の動向や具体的な政策を知ることができてよかったといった感想をいただきました。

●参加者から

- ・今後取り組むべき指針が新たに考え直させていただき目標もできました。
- ・国レベルの施策や動向を知ることができた。
- ・データが豊富で分かりやすく、22年の行動計画づくりに目視した行政の動きや法改正の内容などを知ることによって今後の自分たちの活動目指すものが見えてきた。

<プログラム2> 基調講演

テーマ「子育てひろばの意義と子育て支援のあり方」

講師 東京都練馬区立 光が丘子ども家庭支援センター所長 新澤 拓治さん



子ども家庭支援センターでの活動を紹介していただくとともに、実践から生み出された理念を示していただきました。地域の現状、時代背景に合った子育て支援が必要であることが話されました。また、なぜ子育て支援が必要なのか？ 自分たちの役割は何か？を意識し続けること、地域のネットワークをいかして子育て支援に取り組むことの必要性が語られました。

参加者からは、ひろばのあり方・意義を改めて考えることができた、現場での活動にいかしていきたい、支援者として共感するところがありまた頑張ろう！と思えた、といった感想が聞かれました。

●参加者から

- ・自分がいつも心がけていることを改めて言うてくださった気がして嬉しかったです。日々の小さな言葉がけなどが大きな結果となっていくと信じて頑張っていきます。
- ・自分自身が体験しての経験をいかしたうえでのお話をしていただきデスクワーク上ではなく本当のお話を聞くことができ感動ならびに勉強になりました。このようなお話を聞かせていただき、まだまだ、いろんな分野でお話が聞きたいです。
- ・「ひろば」の在り方について、現場の話を聞いて大変意義深かった。お母さんの力を引き出すために支援者として、何をすべきなのか、考えるきっかけになった。
- ・現状がわかりやすく、親支援、子育て支援の重要性を改めて感じた。配給型の事業とならないような支援を心がけていきたい。

<プログラム3> 分科会

第1分科会

テーマ「事例報告から学ぶ」 ～思いをかたちにする方法をみつけよう～

【コーディネーター】

徳島市立津田保育所副所長・在宅育児家庭相談室担当

名護 仁美さん

【パネリスト】

牟岐町子育て支援センター「あそびの広場」(牟岐町立西部保育所)

樫山 かおるさん

子育てネットひまわり 代表

有澤 陽子さん

NPO 法人 ふらっとスペース金剛 代表理事

岡本 聡子さん



名護さんが所属する公立保育所におけるひろば事業について、立ち上げの経緯、取り組み内容についての報告がありました。



樫山さんは、牟岐町の人口、就学前乳幼児数、出生数の報告の後、子育て支援センター「遊びのひろば」の開設から取り組み内容を報告され、有澤さんは、一人の母親がひろばに関わるようになった経緯について報告がありました。

岡本さんからは、富田林市の地域の説明の後、DVD を使って活動の様子について報告がありました。



フロアからの質問

- ・職員は利用者にとどこまで踏み込むか？
- ・利用者は職員に関わってほしいと思っているか
- ・事故への対応は？
- ・保育士として支え合える関係づくりへのヒントは
- ・障害者への対応は？

・利用者とスタッフは支え合う関係だと思いが、利用者から何をどのように提供してもらうか？等など、多くの質問があり、活発な意見交換が行われました。

●参加者から

・「子育て広場」を立ち上げられた方々の気持ちや苦労を聞くことができよかった。「子育てひろば」という“未知な取り組み”に日々悩みながらも「子育て悩むお母さんのために」と奮闘する姿に私は感心しました。この人たちの「行動力」を見習いたいです。

・子育て中の親と寄り添いあってホッとできるひろばでありたい。いかせられる資源は発掘し、保護者に提供していき、生き生きと皆が子育てできる環境をつくっていきたい。

・あらゆる方面から質問がでてパネリストの方もわかりやすく答えてもらえて、とても参考になった。“利用者の力を借りる”がとてもヒントになった。親のニーズに限りなく寄り添っていくということも仕事に役立てれそうです。

第2分科会

テーマ「市民と行政の連携と協働」

～市民のできること、行政のできること～

【コーディネーター】

NPO 法人わははネット 理事長

中橋 恵美子さん

【パネリスト】

子育てほっとスペースすきっぷ

森 エミコさん

親子のひろば「のび～すく」担当理事(社)草加市シルバー人材センター 理事

東 幹男さん

香川県善通寺市健康福祉部子ども課 課長

田中 渉さん

【コメンテーター】

厚生労働省少子化対策企画室

朝川 知昭さん

徳島県保健福祉部こども未来課 課長補佐

川口 始さん

中橋さんからは、「子育て支援の活動をする団体が、行政とのよりよい連携で活動を高めていくかについて話し合うことが本日のテーマで、参加していただいている皆さんとディスカッションしていきたい。こうした地域で子育て支援に取り組んでいる方々に、つどいの広場に必要性を認識していただけて帰ってもらえればありがたい。」と話され、「NPO 法人わははネット」の設立から現在の活動(坂出市・高松市から委託されて商店街の中でひろばを展開。子育てマンションなど)について紹介がありました。



東さんは、埼玉県草加市のシルバー人材センターによる子育て支援やシルバー世代の活躍について報告され、森さんは、子育てほっとスペースすきっぷの紹介、商店街との協働について報告されました。

田中さんは、善通寺市の状況、保健と福祉の業務が混在して子ども課となって保健師が母親のケアもできるメリット、市民がワンストップで手続きができてサービスの向上がはかられたことなどを話されました。川口さんは、子育て総合イベント「おぎゃつと」でNPOやボランティア、新聞社、企業などの参画で実行委員会を設置し県内4大学の学生も企画運営していることから連携・協働が確立したことなど、徳島県の取り組みを紹介されました。



子育てほっとスペース すきっぷ がある
籠屋町商店街の理事長さんから



「商店街運営は大変苦戦しているが、以前に国の制度で、我が街再生プログラムというものがあった、試験的に1ヶ月間子育て支援の取り組みを開催している。大変盛況で、それがきっかけとなり、つどいの広場を開設して5年目になる。中心市街地の活性化については、すきっぷが売上に貢献しているかの判断はしにくいですが、1日50組の来街は人通りとしては貢献しており、まさに人通りを多くする事が商店街の活性化であることから、すきっぷの存在はありがたい」といったお話がありました。



フロアからの質問

- ・ 行政が協働のパートナーを選んで事業が開始されるという動機や決定までの過程を聞きたい。
- ・ 行政と連携するために活動を PR して自分たちの活動をアピールするタイミングを教えてください。
- ・ 中高生の居場所もなく、親たちが話し合う場がない。行政にはそうした問題も盛り込んでほしい。

●行政は担当者が代わるが、NPOの方々が行政と付き合いときは担当者は代わるものだという認識で付き合いあってほしい。

●地域にあった広場の在り方というテーマ設定であることから分かるように、この取り組みも次のステップに移ってきたように考えている。地域のお母さんは忙しすぎて行政の動きを把握できていないところがあり、我々のような支援者が上手に伝えていく必要があると感じている。

●参加者から

・行政との連携。お互いのコミュニケーション。関心のないお母さん達と市(行政)をつなぐパイプ役としての役割。ただただ勉強。いろいろと考えさせられた。

・行政の担当者として、もっと現場に足を運び、知ることが大切だと感じ、行政としてできること、担当として努力しなければならないことを日々考えて仕事をしていきたいと思いました。

・行政の立場、NPOの立場、それぞれの立場での問題点、思いを言えるとてもいい機会だった。仕事をする上で大変いいヒントを得ることができた。できないばかりではなく、どうできるようにしていくか知恵をしぼることが仕事なのだったと思った。

第3分科会

テーマ「支援者としての親子への関わり方」～ひろばスタッフのスキルアップ～

【コーディネーター】

NPO 法人子育て支援ネットワークとくしま 理事長

松崎 美穂子さん

【パネリスト】

NPO 法人こどもねっといしい 理事

臼杵 秀子さん

NPO 法人子育てネットくすくす 理事長 善通寺市子育て支援総合コーディネーター

草薙 めぐみさん

第3分科会は参加型にできるように2名の
パネリストで進行



臼杵さんは石井町の人口、農耕地の多い土地柄で高齢化、核家族が増加など説明をされ、こどもねっといしいの開設から取り組み内容、課題、問題点を報告されました。



草薙さんは子夢の家・子育てコーディネーター事業の説明、善通寺市の事情、自分の地域の資源を知ることや地域の親子の関わりを知ることが大切、ひろばの中で大事にしていること、支援者として大事にしてほしいことを報告されました。

フロアからの質問

- ・一時預かり
- ・コミュニティーカフェ
- ・視察



5つのグループに分かれワークショップ

- ・ 親子にどう関わるか課題を記入
- ・ 自己紹介をしながら発表、協議
- ・ 問題点、課題を発表

各グループで質問を1つに絞り、パネリストが助言グループで来た人と新しく来た人との関わりについて質問しました。

- 見学・視察は自分たちが外へ出て勉強する事の大切さ、反省と前進でより良いものにする
- 親子の利益になるよう、抱え込まず外へ出す→勉強会

スタッフで共有する

||

ひろばの課題

||

刺 激

||

スキルアップ・改善

- 自分だけの中で悩まず、他のスタッフ、人との共有でスキルアップを図るネットワークを利用する

●参加者から

- ・他団体の問題点などを聞くことができ、どのような対策をとっているか等、話を聞いて良かった。パネリストの話は自分達の悩みを解決する参考になり勉強になった。
- ・支援者としての悩みは他のひろばの人と同じような悩みを持っていて、いろんな人の意見が聞いて良かった。自分の地域を事をよく知ることが大事だと思いました。
- ・利用者がグループ化してしまう中にも、その中で問題があるということを知りました。支援者にはなっても指導者にはなってはいけない。皆さん、何らかの団体に所属していることに驚きました。

<プログラム4> 全体会

テーマ「市民と行政の連携と協働」～市民のできること、行政のできること～

【コーディネーター】 NPO 法人わははネット 理事長 中橋 恵美子さん

【報告者】

第1分科会	徳島市立津田保育所副所長・在宅育児家庭相談室担当	名護 仁美さん
第2分科会	NPO 法人子育て支援ネットワークとくしま 理事	晴山 園世さん
第3分科会	NPO 法人子育て支援ネットワークとくしま 理事長	松崎 美穂子さん



3分科会からそれぞれ内容を報告

●参加者から

- ・各分科会の意見を報告していただき、シニア(シルバー)として若いお母さん方にどのように関わっていくのか配慮しなければならない点が多々あるように感じました。
- ・3つの分科会のまとめを聞いて、改めて「根底の思いは共通で「それぞれの立場を認め合いながら子育て支援を一生懸命していこうということだ」と思った。
- ・それぞれの分科会で皆さんそれぞれが内容の深い話ができていると思った。子育て支援を支えるのは、私たち“民衆一人一人の力”あることを実感した。



●参加者から

- ・シルバーとして子育て支援できることを探りながら、できる範囲の中で努力していけたらと思いました。
- ・高齢者がいきいきと働きながら、若い保護者とともに子ども達を育てていけることに協力していきたいと思えます。
- ・全体的には各地方他県からの参加も多く、この様な機会をどんどん開催してほしいと思う。
- ・徳島県で質の高い研修セミナーが開かれとてもいい勉強になり、県外に出て勉強しなくても身近でいろんな知識を得た。お世話になりました。
- ・皆さんのパワーを感じ、素晴らしかったです。ありがとうございました。